

16 おしんめさまのこま犬いぬ

伝承地：徳次郎町1594

参考書籍：33



(神明宮)

徳次郎町の国道293号線を北に入った日光宇都宮道沿いに神明宮というお宮がある。ここは、むかし、徳次郎大字の中心であったといわれ、お宮は奈良時代の宝亀2年(771)の建立で、五穀豊穡、災難防止の神である。

神明宮の守り神として2頭のこま犬があり、次のような言い伝えがある。

このこま犬の前で願い事を申し述べた後、「もしかなえられるならば軽くお上りください。」と言いながら両手でこま犬を持ち上げると、願いがかなえられる場合には軽く上がり、願いがかなえられない場合には重くて動かないということである。

しかも、この占いがよく当たるということで、多くの人でにぎわったといわれている。



17 おびんずるさん

伝承地：小幡1-2-10 (宝勝寺)

話者：27



(おびんずるさん)

通称清住町通りと呼ばれている旧日光街道の西側に、宝勝寺がある。

宝勝寺は、「日限地藏尊」で有名であるが、同時に「おびんずる」と称する木造仏(坐像、像高約50cm)が安置されており、人々に深く信仰されてきた。

「おびんずる」とは賓頭盧頗羅墮〔ピンズルハラダ〕のことで、16羅漢の一つである。

宝勝寺の「おびんずるさん」は、古くから万病を取り除いてくれるありがたい仏様であり、病人は自分の悪い部分を手でなで、その手で「おびんずるさん」の同じ所をなでると不思議なことに病はたちまちなおるといふことで、多くの人々がこれにあやかるとのことである。

